

## 第1回 市長と語ろう「まちづくりふれあいトーク」

開催日時 平成21年7月1日(水)午後6時30分～

場 所 市役所2階 第3委員会室

テ ー マ 子育ての新たな支え合い



### (開会あいさつ)

【市長】

今日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

第1回目のまちづくりふれあいトークに、お疲れのところ市役所まで足を運んでいただき、心から感謝を申し上げます。

今日は、子育ての新たな支え合いというテーマで皆さんに来ていただいております、いろいろとお話を伺いながら進めていきたいと思っております。

私は、議員時代から行政と市民との垣根というものを感じておりました。市の職員には、市民の皆さんと一緒に話を進めていけたらと考えており、まず私自身が見本となってということで、今日の運びとなりました。

いろいろお話しただいて、もし何かができるようなことがあったときには、市役所の中でも見方が変わると思いますが、皆さんとお話しして、ほんの一部でも何かを変えることができたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

### (子育て応援活動の周知)

【参加者A】

私たちの団体は「子育て支援センターすくすく」といいます。子育ての援助を受けたい人(依頼会員)と子育ての援助ができる人(提供会員)とが登録し、依頼に応じて有償でお子さんのお世話をする活動をしています。利用料金は、30分350円です。5月末現在で572名の会員がいます。依頼会員が381名、提供会員が120名、両方会員が71名です。核家族化が進んでいますし、転勤族の方が会員になるケースが多いので、依頼会員の方が圧倒的に多い状況です。このため提供会員の拡大が必要と考えており、今日参加して私たちのことを知っていただいた他の団体の皆さんや、行政で関わりのある各団体に活動の周知協力をいただけないかというのが1つ目の提案です。



現在、提供会員が少ない上に、地域によってバラツキがあります。それらの解消のためにも、幅広く会員の募集をしたい。福祉関係だけでは会員が広がらないのかなと考えています。

【市長】

PRが必要だということですね。

【参加者B】

はい。広報くしろなどにも載せていただいているのですが、預ける方も預かる方も会の仕組みを

理解するのに時間がかかっているかなという気がします。

保育園施設や幼稚園施設の利用にあたり、例えば「朝、幼稚園に送れない」、「幼稚園が終わったあとに少し預かってほしい」など、その合間の時間にサポートセンターを使っただけだと非常に助かりますし、また、依頼会員の中には「何かあったときに利用したい」と登録している人もいます。

【市長】

コーディネートを各ブロックで行っているんですね。かなり大変なことだというイメージがするのですけど。

【参加者B】

件数的には、ここ2～3年は大体1年1,000件くらいで、ボランティアの方達にも協力してもらいながら続けています。阿寒・音別地域でも同じく行っています。

【市長】

申し込みは何日くらい前から受け付けているのですか。

【参加者B】

当日という場合もありますが、大体は前もって連絡があります。事前に預ける方と預かる方を紹介して、顔を合わせて準備をして何とか軌道にのってきていますが、できればもっと多くの方に活動の内容を知っていただきたいですね。

【市長】

市の総合計画の中にもありますが、「新しい公共」といいますか、今までは行政が行ってきたものを、民間やNPOなどいろいろな団体に担っていただけることは非常にありがたいことです。また、そのことを積極的にPRしていく必要があると思います。

【参加者A】

私たちは、どうしても福祉関係ばかりへの紹介・PRが中心になってしまうので、保育園や幼稚園、学校、児童館施設以外に民間企業にもチラシを置いてもらえればPRになると考えています。

【市長】

協力してくれるところがあれば、心強いですよね。

活動の中心になっているのは、子育てを終えたくらいの年代の方々ですか。

【参加者A】

提供会員は、自分の子どもが大きくなった40代～50代の方が多いですが、現在子育て中の方でも依頼会員の子どもを預かってくれている方もいます。

## （会員外への事業拡大）

【参加者A】

2つ目の提言ですが、有償でもいいので託児をしてくれる人を紹介してもらえないかという話が多く寄せられます。「すくすく」の事業自体は託児がメインではないのですが、そのような需要に応えるため、託児ができる組織を作りたいと考えています。

昨年は、市の母子就労事業の関係で、母子家庭の方で子どもがいることによって事業に参加できないということがあり、「すくすく会員」の協力を得て託児を行ったこともあります。今後は、市の協力を得ながら、また市で行う事業へも託児サポートとして参加していけたらと思っています。

【市長】

ぜひ、やっていただきたい、ありがたいお話ですね。  
具体的にはどのような事例があるのですか。

【参加者A】

例えば、講演会があるけどそこに託児があれば参加できるのという話があります。講演会だけではなく、自分の趣味の範囲でも教室などでも託児があればと。幅広い形で協力できればと考えています。

【市長】

子育て中のお母さんにもいろいろな意味での気分転換が必要ですよ。

【参加者A】

今は母と子が1対1になっていることが多いですね。昔は、祖母が面倒をみてくれるという形があったのが、なくなってきているというのが現状なのかなと思います。

【市長】

そういう家庭が増えていますね。

### （図書館の重要性）

【参加者C】

私たちのサークル「おはなしネットぼんぼん」では、図書館を利用して本や絵本のこと、子どもの文化に関わることを自分達で研修したり、いろいろな方と交流したりしながら活動しています。子育て支援の側面にはいろいろなものがあると思いますが、自分達の活動の範囲の中で考えられることを提案しました。

1つ目には、「場」ということで図書館の重要性を意識していただきたいとの提案です。

市民の一部の人だけが恩恵を受けたり利用できたりするのではなく、誰もが利用できる場の環境を整えるということが、行政の一つの役割ではないかと思っています。そういう意味では、図書館は、生きるための情報のある場として大きな役割を持っていると思います。従来、図書館は本



を借りたり返したりというイメージが強かったと思いますが、今はとてもたくさんの役割を持って人と人のふれあいとか情報の提供など、いろいろな意味でまちの活性化にも大きな役割を果たしています。実際に児童室などで週3回ほど、絵本の読み聞かせやお話し会を開いていて、小さい子を連れた親子が活用しています。図書館司書の方は、子育て支援の資料や本のコーナーを設け、またチラシなども設置して情報の提供をしています。ほかにこのような

場はあると思いますが、誰もが気軽に行ける場としても、図書館の大切さをわかってほしいと思っています。

【市長】

調べ物や親子のふれあいなど、図書館は大事な場所ですので、今後も充実させていく必要があると考えています。

【参加者C】

今の図書館は、多くの方が行きやすい場とはいえない部分があります。図書館というのは静かにしないといけないというイメージがあると思いますが、赤ちゃんや子ども連れでも気軽にみんなが集まったりふれあったりできる場と考えますとスペース的にも場所的にも今のままでは難しいと感じています。

【市長】

今、図書館基本計画の策定の中で、図書館のあり方についてもいろいろと議論をし、ご意見をいただいている最中ですので、このお話についても検討していく必要があると考えます。

【参加者C】

人と人、親子をつなぐ架け橋として本の役割はとても貴重だと感じています。そのためにも、市立図書館だけでなく、地域における図書館機能の充実を図ってほしいと思います。本というのは長い目でみて人を育てるのに有効だと思います。だからといって、本だけがあるという状況ではなく、人から手渡されるという人のぬくもりが大事だと思うので、人の配置もお願いできたらと考えています。

【市長】

私も本を読むことは大事だと思います。最近は多くの本を置いている家庭が少なくなっているとも聞きますので、図書館、児童館、またコミュニティセンター図書室を充実させ、また学校図書も限られた予算ではありますが、充実させていきたいと考えています。読み聞かせなども必要だと感じています。各施設や学校への司書の配置につきましては、なかなか難しい状況ですので、ご理解をいただきたいと思います。ただ、読書の大切さは強く感じていますので、各家庭でも率先して読まれるようになるとういいなと思います。

## （ブックスタート事業）

【参加者C】

今の市長からのお話につながるのですが、本を読むようになるきっかけとして「ブックスタート」の提案をさせていただきます。ブックスタートは、0歳児健診のときに、赤ちゃんとお母さんに絵本を贈るというのですが、保健センターと図書館とボランティアの連携が必要な事業です。釧路の今の状況では難しいという話も聞いています。いろいろな事業をして、参加者を募集しても自ら出向いて行くというのはなかなか大変です。0歳児健診は受診率が高いと聞いているので、そのような場で絵本を通しての楽しさとか、触れるきっかけ作りに有効ではないかと思います。今の親御さんには子育てにとまどいを持っている方が多いと思います。絵本を架け橋とすることでコミュニケーションがとれたり、子育てが楽しくなったりすると思います。絵本を読まなければだめということではなく、絵本があることで温かい空気が生まれたり語りかけができるようになると思うので、このような場があるとういいなと考えています。今は無理でも、現状の中で少しでも何かできないだろうかと思っています。

【市長】

絵本は子どもにとって必要な物だと思っています。ただ、「ブックスタート」で、絵本を渡して読んでくださいということになると、本来の目的が薄れ、絵本を配ることが目的になってしまうと問題です。市でも、「赤ちゃん絵本を楽しもう」というパンフレットを作り、絵本の紹介を進め

ているところです。「ブックスタート」の仕組みがまだ整っていないこともあり、機運を高めていきながら検討していきたいです。

### （子育てに市民が関心を持てる環境づくり）

#### 【参加者C】

子育てに関するものを子育て中の親子に限定しないで、いろいろな世代が集まって関わりあえるようなことができないだろうかという提言です。例えば、子育て教室が開かれる場合には、子育て中の親子が前提というようになっていますが、一般の人でも参加できるような企画をして、関わり合えるようなことができたらいいいのではないかと思います。実際に子育て中の方の話では、孤立感や疎外感があると聞きます。もっと自分の地域のいろいろな人に子育てについて関心を持ってもらいたい、理解してもらいたいと思っている方が多いようなのでそういう機会があるといいのではと思いました。

#### 【市長】

そうですね、学校でも、学校と地域と家庭が連携を持って進めていきたいと思いますと言われてはいますが、なかなかそうは行ってないですね。お互いがもっと情報を共有して、オープンにしていくという機運が求められていくと思います。いろいろな団体が行っている子育ての取り組みも表に出していく形を取りたいと思います。学校で困っていることは、社会、地域にも投げかけて表に出し、さまざまな意見をもらい話ができるような関係を作ることが大事だと思います。

子育てに関しても、一部だけではなくいろいろな所に情報を出し共有していくように進めたいと思っています。これができるいろいろなことが変わっていくと思います。

### （児童館の活用）

#### 【参加者D】

私達「鶴ヶ岱児童センター母親クラブ」は、児童館の母親クラブとしていろいろなPR活動を行っています。児童クラブに加入する子どもの数は増えていますが、昼間児童館を利用するサークルに加入してくれる親が減っています。通勤族の方は友達をつくるきっかけになるので加入してくれますが、地元の方は就職している人も多く、加入が難しい状況です。幼稚園や小学校などの団体へ呼びかけをして、活動のPRをしたいと考えています。ポスターとかの活字ではなく、例えば、参観日などで皆さんが集まっているときに、このような活動をしていますとオープンにPRしてもらい、誘える場があるといいと思っていますがなかなか出来ないでいます。特に幼児のサークルへの加入が少ない状態です。サークルだと20代～60代までと年齢が幅広く、一緒にいろいろな事ができるので、とてもいい事だと思います。親に言われると素直に聞けないことでも、ほかの人に言われると素直に聞けたりすることもあると思います。



#### 【市長】

そうですね、ほかの人に言われると素直に聞けることもありますよね。なんとか機運を高めたい

ところですね

【参加者D】

町内会の方たちなど、もっと年齢の高い方にも児童館を利用してもらうため、夜間や日曜に児童館を開放できないでしょうか。

【市長】

市の施設を開放していろいろな活動を活発にしていくのはいいことですが、一方で行政として管理責任のことも考えなくてはいけないところです。このようなこともあり、現行のルールの中などでご利用をお願いします。このことを踏まえたうえで、どういうことができるかということだと思います。

【参加者D】

はい、今小学校では、「困り感」のある子どもが増えていて対応に困っているところです。幼児期に特徴が出ていて分かる人には分かるそうです。早く親に気づかせてあげたいが、直接親に伝えるのは難しく、また親もその事実を認めて受け入れるのが難しいです。そこで、幼児サークルなどに専門の方が遊びにきたような形をつくり、親に気づかせてあげてほしいと考えました。

【市長】

確かに、早い段階で分かるそうですね。親として認識するのもさまざまな環境もあって難しいようですね。

市で行っている1歳半や3歳児の健診には100%に近い受診があるのですが、その時に分かるので、1人1人に市でも声掛けをしています。家を訪問して相談もしたり専門の相談所を紹介したりもしていますが、すぐに受け入れられない親御さんがいるのも確かです。

【参加者D】

児童館に遊びに来る方の中には、困って来る親もいるので、早めに分かった方がいいかなと。

【市長】

児童館に常時職員を置くというのではなく、必要なときに派遣をすることも可能だと思いますのでご連絡をお願いできたらと思います。

【参加者D】

有料でも構いませんので、児童館で夜間、時間延長して子どもを預かってほしいと思います。また、土曜日に児童クラブ加入者以外もお弁当を持って行けるようにしてもらえないかと思います。

【市長】

先ほどの児童館の休日利用のご要望に対して申し上げましたとおり、管理責任の問題もありますので、今の形でご利用いただきますようご理解をお願いします。

## （全体討議）

【司会】

「すすすく」さんとして、児童館とのつながりなどで考えられることなどはありませんか。身近な子育ての施設として、市内に20館もあっていろいろな方が使えるという施設ですので、子育ての拠点をみんなでどのように共有していくかというのは大事な事かと思うのですが。

【参加者A】

児童館は、非常にいい拠点だと思います。児童館の母親クラブにはご協力していただいています。

「すくすく」を立ち上げる時にもいろいろご相談させていただきました。これからも母親クラブさんたちと一緒に活動していきたいと思います。

【参加者F】

先ほどの提言で出ていた児童館で延長して預かってほしいという要望は、「すくすく」さんの依頼会員となることで解決できますよね。

児童館母親クラブの会員が増えないのは、専業主婦が少ないからだと思います。子どもが小さいうちは外に出るのは、健診などしかないと思いますのでその場だとPRしやすいと思います。もちろん「困り感」のある子どものことも自分と子どもだけではわからないことが多く、どこかに出て行くと自分の子どもはほかの子とちょっと違うのではないかと気づくこともあるので、外に出て行くのは大事だと思います。児童館では、お母さん達がいろいろな活動をしながら話をして、少しでも子育ての役に立てばいいかなという思いで進めていますが、今、実際に子育てをしているお母さんが入ってきません。また、今は何でも地域のためにとっていますが、何をすればいいのかわからない、やりたくてもできないという部分がたくさんあります。

社会福祉協力校というのにほとんどの学校がなっていますが、その割には、地域とのつながりが少ないと思います。地域と学校と一緒に何かできないでしょうか。提案として、特に0歳児の健診にはたくさんの方が行くと思いますので、そういう場で児童館のお知らせができれば、お母さん達も児童館の活動に参加して楽しい子育てができると思います。

【参加者D】

文字や活字だけではないPRもができたらと思います。文字だけだと、どんなところなのかと不安に思う方もいると思います。もうちょっとわかりやすいお知らせができないかなと。

【参加者F】

健診時に実際に行き、その場でPRするとか。書いているだけだと素通りしてしまうことが多い気がします。ちょっとしたことで何かやりたいなと思っています。

【参加者D】

町内会のこともそうだと思うのですが、町内会と学校を結び付けるには子どもが一番だと思っています。昔は、ラジオ体操や盆踊りを学校で指導してくれていたのが町内会の行事に参加するようになっていました。今は、どこの会場のラジオ体操に行っていないのかわからない子がいます。学校には、校区内にある町内会のことを意識してもらいたいです。学校から子どもを通じて町内会のことを親に話せば、町内会に入る親も増えるし、小さいうちから、町内会の存在を知ってもらうのも大事だと思います。

【市長】

学校が閉鎖的だというのは昔からの課題ではありますが、学校も、大変忙しいところです。先生達も遅くまで学校に残り、さまざまな対応をしています。何とか、少しずつでも変えていく努力はしていきたいと考えています。

**(閉会あいさつ)**

【市長】

ありがとうございました。限られた時間の中でしたが、先ほどのお話の中にありました健診でのPRですが、例えば、健診のチラシなどの一部に自分達の情報を書いて作ってみるということも

できると思うんです。いろいろと相談しながらできることだと思います。そういう意味で、両方がタッグを組み、試行錯誤しながら進めていけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。地域の中でさまざまな活動をしていただいているのは、大変ありがたいことだと思っています。このような状況の中で、まちづくりを進めていくものでありますので、私達行政の方でやることは、情報を提供しながら、市民の皆さんとの信頼関係のなかでまちづくりを進めていくということだと思っています。そのためにも、さまざまお話し合いを持ちながら対応していこうと思っていますのでよろしくお願いいたします。地域において、子どもが宝ですので、そういう意味でもいろいろなご意見を賜りますようお願い申し上げて締めのご挨拶とさせていただきます。本当に今日はありがとうございました。

